

家内の実家の名古屋での元日の親類顔合わせも終わって自宅に帰ることになるが、せっかく名古屋まで来たのだからと、少し足を伸ばして京都まで出かけて日本縦断徒歩旅行の続きを歩くことにする。前回は2年半前に東海道の終点である京都三条大橋までは歩いており、一方、それとは別に六甲全山縦走もしているので、三条大橋から六甲の東側の甲陽園まで歩くと、一挙に神戸の須磨まで繋がるが、なにしろ60キロ近くもあるので、走りまじえても一日ではちょっと無理かもしれない。

朝、箱根駅伝1区のトップ終了まで見てしまったこともあり、三条大橋に着いたのは2時近くになってしまった。軽く食事をとってから、高瀬川沿いに南下。しばらくは行楽客で賑わっていたので、走ることは控えていたが、人影もまばらになってきたあたりからジョギングを開始する。



三条大橋



GPSのナビを使っているので道に迷うことはないが、いつまでたっても京都府を抜け出せないなので気分的に少々あせる。時間的に甲陽園までは無理とナビの目的地を茨木に変更する。

やがて気づかぬうちに大阪府に入り、JRの高槻駅が間近となってきた。高槻駅で終了してしまいたい誘惑にも駆られたが、なんとかこらえて茨木まで行くことにする。ナビとにらめっこし

ながらやっと茨木まで着いたが、なにかおかしい。JRの駅にセットするつもりが阪急の駅にセットしてしまったのだ。JRの駅はさらに西に1キロ半行った先であった。今日はここがゴールと駅前の居酒屋で祝杯をあげる。この続きは今年のGWで四国まで足を伸ばしたいと考えている。

2012年4月11日(水)

仕事に来たのか歩きにきたのか

今日は午後から岡山で仕事があるのだが、それだけのためにわざわざ岡山くんだりまで行くのはもったいないと、正月の帰りに歩き残した茨木から甲陽園までの約28キロを歩いてしまおうと大胆(?)計画をたてたのだった。そのためには往復を両夜行バスとしたのだが、どこでも眠れるのが特技(?)の自分にとっては全然問題はないのである。

愛知県内のサービスエリアでトイレ休憩した後、うとうとして目覚めると京都の下車時間まであと1時間ばかりであった。現在地を確認しようとPDAを取り出すと、当然、名神高速上を走っていると思いきや、滋賀と三重の県境付近の道のない所をGPSは指している。一瞬、GPSが壊れてしまったのかと思ったが、自分のPDAは3年前に製造中止になった製品で、地図も古いものであることを思い出し、多分新しい道ができたのだろうということで納得した。軌跡はやがて名神と合流し、間もなく京都駅に着き、そこからJRで茨木まで移動してから、西に向かって歩き出す。

しばらく歩くと見覚えのあるオブジェが見えてくる。大阪万博のシンボルとなった岡本太郎氏作の「太陽の塔」である。大阪、名古屋と2回の万博を見る機会があったにもかかわらず、ヘソ曲がりの自分は皆が行く所には行きたがらないという困った性分のため、両方とも行き損ねてしまった(別に残念とも思わないが)。



今日は気合を入れて、皮靴は鞆にしまい運動靴に履きかえ、鞆は紐を出して背負って歩いたのでペースが進み、午前中は豊中たりまでかなと思っていたが、伊丹近くまで歩くことができ、伊丹空港下の長いトンネルを潜ってしばらく歩くと JR の伊丹駅で s った。

仕事の方は首尾よく終わり、伊丹から続きを歩き始める。午前中に 16 キロ歩き、残りは 12 キロ弱なので気楽なものである。夜道はわかりにくいし、最後の 5 キロほどは路地を縫っていくので、迷いやすいところであるが、ナビまかせなので安心である。ところが、ナビの選択したルートを確認すると大きく迂回してゴールするようになっている。地図上ではほぼまっすぐゴールまで続いている細い道があるので、ナビのルートを外してそちらの道を進む。並行していた新幹線がトンネルに入ってしまった先からはかなりの登り坂となってくる。夜の山道だったら不安になるところだが、人家が密集しているので安である。ナビのルートとだいぶ離れたので、今度は今歩いているルートを選択するだろうと再検索すると、やはりさきほどのルートまで戻って迂回するようになっている。強情なナビめと呪ってナビは無視することに決め込む。道はますます急傾斜になって最後は丘の上まで階段が続いている。もしやと思って設定を確認すると車モードとなっていた。これで謎が氷解。どおりで午前中も高速道路ばかりを選択したはずだ。徒歩モードを選択しても再起動しないと有効にならないが、階段が終わってから再検索をすると進路上のルートを示していた。モードには自転車モードというものもあったが、これだと果たしてこの階段部分はどう判断されるのだろうか。担いで登れば通過はできるのだが。自転車専用道路などほと

んどない現状ではこのモードの意味はほとんどないように思える。もっともレインボーブリッジは自転車通行不可で歩いて渡ったことがあったけど・

そこから先は関西学院の横の急な道を通ってゴールの甲陽園駅まで道が続いている。ところがゴール直前でナビのルートがまたしてもちょっと迂回している。そこで迷わずに最短路に行く。回りくねった細い道だが、車が通れないこともない。やはりお馬鹿なナビだ。

ゴールの甲陽園まではだいぶ昔に須磨から六甲山脈を通して歩いたことがあるので、これで日本徒歩縦断の西端は須磨海岸まで達したことになる。甲陽園からは電車で大阪駅まで戻り、居酒屋に入ってビールで喉を潤したが、夜行バスの集合時間まではまだ1時間以上ある。どう時間を潰そうかなと考えていたところ、大阪環状線はまだ一周はしていないことに気付き、乗り鉄としてはこれはいかざるをえないと1週してくると、丁度いい時間となった。こうして、仕事に来たのか歩きに来たのかよくわからない一日が終わった。次回の日本縦断はGWに須磨海岸から山陽道を西進して四国上陸まで目指す予定だ。

2012年5月3日(木)

連休後半戦 一日目

連休の後半戦は日本縦断徒歩旅行プラス α です。 α の中身はおいおい紹介することとして、大阪に夜行バスで着いた所から旅は始まります。事故があったばかりのツアーバスですが、いままでならばカーテンで仕切れないので嬉しくない3列席の真ん中席も、衝突等際の安全性は比較的高いだろうと好ましく思えてきます。

今回の徒歩旅行の出発点は須磨ですが、その前に三ノ宮で下車します。三ノ宮や元町といった所は一度歩いてみたいと思っていたからです。もっと洒落た町かと思っていましたら意外と地味な町でした。海側を歩けば違った印象があったかもしれません。元町からは更に湊川を目指して歩きます。その昔歴史少年であった頃に読んだ本で

印象深かった楠木正成が壮烈な討ち死にを遂げた湊川の古戦場を見てみたかったからです。まず湊川神社に行きます。境内に楠公会館というのはありましたが、他には正成にまつわるものはありませんでした。次の湊川公園は道路の上にある広い公園で、その片隅に正成が馬上に跨がる勇ましい像が立っていました。



近くの公園には決戦前の正成の本陣跡もあるとのことでしたので、そちらにもいってみました。小高い丘の上からは神戸の街が見渡せる所で、尊氏の大军を眼下にして正成がどのような思いであったのかと昔をしのびました。

そこから兵庫駅まで歩いて電車で須磨まで行き、いよいよ縦断徒歩のスタートですが、寄り道をしてしまったために11時過ぎになってしまいました。

歩き出してしばらくすると遠くに明石大橋が見えて来ますが、一向に近づきません。ようやく橋の袂にたどり着いた所にあった食堂で橋を眺めながら食事をします。

雨の中を歩いてきたために両足に豆ができてしまったのでバンドエイドを張っておきます。食後に歩き出しますと豆の状態が悪くなってきました。やむを得ず途中の駅に立

ち寄り、豆を潰しておきました。これで多少は歩きやすくなりましたが、歩行ペースは上がらず、雨も激しくなってきましたので、予定の高砂まで8キロを残して電車に乗ってホテルに向かい、一日目の行程を終えました

2012年5月3日(木)

連休後半戦 二日目

今日の行程は短いのでゆっくりと出発する。まずは昨日歩き残した播磨駅まで戻る。昨日できた足の豆はきょうも痛む。それをかばって歩くために足自体も痛くなってくる。騙し騙し歩いて夕方に小赤壁に着く。小さい岩壁だが、比較的知られているところである。早く着ければ登るつもりだったが、時間も時間だし、足も痛かったので、明朝天気が悪くなかったら登ることにして、堤防の上にテントを張って一夜をあかすことにする。

2012年5月5日(土)

連休後半戦 三日目

連休後半戦三日目はクライミングと乗り鉄に明け暮れました。



朝は小赤壁で4本ばかりの短いルートに登ってから姫路に向かう。

ここからは初日に雨のため登れなかった六甲に向かうのだが、時間的には尼崎経由の方が近いものの、JR全線乗車を目指しているために福知山経由の大回りで行くことにする。iモードで調べたところでは特急を乗り継がないと明るうちには岩場に着けないとのことであったが、実際はローカル線らしからずに普通でもスムーズな接続で3時半頃には裏六甲の岩場に着く。連休中だから本チャンかもっと規模の大きい岩場に出かけていてガラ空きかと思いきや、結構にぎわっていました。それでも時間が遅かったので、直に自分一人となり、岩場を独り占めすることになりました。そのうちに暗くなってきたので、クライミングは終わりとして神戸に向かう。

神戸に着いたのは9時過ぎとなてしまいました。ネットカフェで一夜を明かすことにしていますので、遅い方が好都合です。ネットカフェは携帯で検索して一番近くのところに行きました。オールナイト1500円でソフトドリンク飲放題付きです。初体験のネットカフェオールナイトからこのブログを書いています。眠くなってきたのでそろそろ寝ます。

2012年5月5日(土)

連休後半戦 四日目

今日の前半は歴史探訪の旅となりました。神戸と言えはやはり今は清盛だというわけで、まずは清盛が宋との貿易の拠点として作った大輪田泊に行こうとして神戸駅から和田岬線に乗るつもりであった。短い路線ではあるが、山陽本線の支線にもなっており、乗り鉄もできるし、和田岬というのは、時代は下って楠木正成が湊川で討ち死にした時に敵将の足利尊氏率いる大船団が上陸した地でもあるので一石二鳥だと思った。ところがなんということか、休日は一日二本のみで、早朝の電車は既に出てしまっていた。ここは北海道の山奥かあと思ったが、しかたないので次のスケジュールである福原京の史跡見学に出かける。さぞかし壮大であったであろう福原京の遺跡として現存するのが土台の石ひとつというのは少し寂しいが、今後の発掘作業に期待したい。



ここから少し登って義経の雛鳥越えの逆落としとして有名な雛鳥越えに向かう。さすがにこの辺りまで来る観光客はいないので静かなものである。

雛鳥越えの場所については異論があり、今回初日に歩いた須磨の近くの一ノ谷の奥の方だという説もあるが、実際に歩いて見ると、やはり雛鳥越えはここにまちがいない

と確信する。それはこの場所が平家の拠点である福原を直撃できる立地条件にあるからである。



鶴越から福原京方面を望む

このあとは、徒歩旅行の続きの姫路方面にはまっすぐには戻らず、三木城址に寄り道し、JR加古川線の乗り鉄までしてきたので、徒歩旅行を再開したのは6時を回っていたが、それから13キロを歩いて、今日のゴール近くにある旅館で旅装を解いた。

2012年5月6日(日)

連休後半戦 五日目

朝から雨の中を赤穂目指して出発する。ところが出発してすぐにナビのルートはずしていることに気付く。赤穂への最短ルートは内陸部に行くようだが、きょうは時間的にも余裕があるので、多少遠回りでも景色の良い海沿いの道に行くことにする。

雨中の行動はうっとうしいが、カンカン照りよりもましである。それに悪天下とはいえ美しい海岸線の眺めはなかなかのものである。

相生の先で昼食を終えて赤穂を目指して歩き出すと天気も回復し、雨上がりの新緑がめにしみるようだ。国道の峠を越えると、赤穂に下る旧道が分岐しているの、そちらを下る。赤穂城への藩主切腹の急報も、この道を通っていったんだなあと思うと感慨深いものであった。



赤穂のホテルにチェックイン後、名古屋の実家からやってきた家内と落ち合い、赤穂城址を観光する。本丸の庭園は見事らしいが、開園時間を終了して見られなかつ

たのは残念であった。



[編\) 第2日目](#) >>

2012年10月5日(金)

日本縦断徒歩旅行(四国遍路編) 第1日目



日本縦断徒歩旅行もいよいよ四国編となったが、今回はお遍路も併せて行うこととし

た。お遍路は10年前に香川県の68番から78番までは行っており(当時は走ったんだ)、前回の縦断旅行では小豆島から高松に上陸するまでだったので、今回の初日は79番から82番を歩いて高松まで行って、その後に67番以下に行くことにした。スタートの坂出から高松までは自動車道路だと20キロ程度なので、昼過ぎには終えて、67番以下に移るつもりだったが、81番82番は山道な上、かなり遠回りの道で高松には夕方ようやく着き、名物のうどんを食べて1日が終わる。

[本縦断徒歩旅行\(四国遍路編\) 第3日目](#) >>

2012年10月6日(土)

日本縦断徒歩旅行(四国遍路編) 第2日目



前日の歩きで古傷を痛めてしまい、今日は足を引きずりながら歩く羽目に。こんな足

で札所巡りなんぞできるものかとも思ったが、痛みを耐えるのも修行のうちと観念する。

ペースが遅いため、67番の大興寺に着いたのはお昼を過ぎてしまった。途中にコンビニもなかったので、門前に飲食店があることを期待したが、空振り。空腹も修行とまたもや観念して、66番の雲辺寺に向かう。八十八ヶ所の最高峰でロープウェイがかかっている。いつもならば、下から歩くところだが、今日は足の調子が悪いので、ロープウェイでいくことにする。それでもロープウェイ乗り場までは遠く、4時前にようやく到着。

ロープウェイで往復後に海岸線まで下降するが、たどり着いたのは10時近くになってしまいバテバテ。キャンプ場よりだいぶ遠いところに降りてしまったので、やむを得ず、堤防の上にテントを張ってしまった。

2012年10月7日(日)

日本縦断徒歩旅行(四国遍路編) 第3日目



防波堤の上のキャンプなのであまりゆっくりもできず、夜明けまもなく出発する。歩き出して1時間ほどで愛媛県との県境に着く。手前に道の駅があり、讃岐うどんの食べ納めをしておきたい気持ちもあったが、朝食後まもなく食欲もなかったのでパス。そのせいか、さらに1時間強歩いたところで空腹を感じてコンビニで大休止となる。十分腹ごしらえをして、標高差400メートル近くある65番の三角寺に向かう。

行程が遅れ気味で、今晚のキャンプ場への最終バスに間に合うためには3時前に駅に戻らなければならないということで、かなりあわただしかったが、なんとかセーフ。それから電車とバスを乗り継いでふれあいの里に着く。

廃校の校舎が簡易宿舎、グラウンドがキャンプ場として低料金で開放されている。今回、わざわざここに来たのは、ここから60番の横峰山に登れる(大半の巡礼者はもう少し下から送迎バスにのるようだ)という理由の他に、体育館にクライミングウォールが設置されているということをネットで知ったからである。

ところが、いつまでまってもクライマーは現れない。一人で登るのはつまらないし、キャンパー達に見物されるのもかなわないので、せっかくクライミングシューズをもってきたんだけど止めにしといた

[本縦断徒歩旅行\(四国遍路編\) 最終日](#) >>

2012年10月8日(月)

日本縦断徒歩旅行(四国遍路編) 第4日目



今日は八十八箇所中の最大の難所と言われる横峰寺を目指す。といっても今はほとんどのひとはマイカーかバスで行ってしまうし、正統派の人は西側から遍路道を行くようなので、東側から登る人はほとんどいないのかもしれない。ただ地図で見ると道はあるようなので、高度差は500メートルちょっとだし、3時間もあれば往復できたらうと夜明け前に出発する。

林道はまもなく無くなり、踏みあとを行くようになる。やがて踏みあとも消えて、藪こぎが始まる。まさか巡礼で藪こぎをさせらとは思わなかったが、たいした登りではないし、じきに終わるだろうとたかをくくる。やっと登りは終わって幅広い平らな道に出たが、その道が横峰寺まで延々と続くのにはウンザリした。結局、横峰寺までは4時間を要したわけで、藪こぎでズボンが穴だらけとなってしまう、散々な有り様で下山することになる。登ってきた道を引き返すことは問題外で、自動車道路を下っていく。

キャンプ場に戻ると、バスは出たばかりで、次のバスまではたっぷり時間があつたので、食堂で遅い昼食を注文すると、今日はカレーの日？でカレーしかできないと言われる。昨晚もカレーだったんだけども思ったが、選択の余地はなかった。食後も時間がありあまったのでメールをうったりして時間を潰し、やっときたバスに乗って西條駅に戻る。

最初は昨日スキップしてしまった三島ー西條間を三島まで戻って歩くつもりであったが、夕方になってしまったことでもあり、足の調子も悪いので、縦断徒歩旅行の継続を一時断念して、ホテルを予約してある今治に向かうことにする。その代わりに、西條近辺の札所を4箇所ほど回る。もっとも最後の札所は真っ暗となってしまう、これではご利益も期待できないかな？

2012年10月9日(火)

日本縦断徒歩旅行(四国遍路編)最終日



今治で瀬戸内海ともお別れで、半島を横断して伊予灘を目指す。途中に札所が二ヶ所あるので立ち寄る。今治周辺には他にも四ヶ所の札所があるが、時間がないので後日としよう。

伊予灘に出るとはるかかなたに(多分)九州の山々も望めるようになる。いよいよ九州も間近である。

初日に足を痛めた影響で、やや足を引きずり気味に歩くのでペースが上がらず、松山駅までは到達できずに松山市内に入った最初の駅を今回のゴールとしてしまう。

今回は初日に足を痛めてしまいどうなることかと思ったが、一部(かなり?)歩き残しはあるにせよ、次回の九州上陸への足掛かりを作れたことはなによりであった。歩き残した部分は他日に再度トライするか、縦断コースそのものを変更してしまなみ街道経由で今治に出るというコースも検討に値する。というのは、しまなみ街道は本四架橋

のなかで唯一歩いて渡れる橋だからである。日本列島徒歩旅行という以上は、歩いて渡れるところを回避したコースどりはやはり？がついてしまう気がする。

《 [天王岩登り納め](#) | [トップページ](#) | [お遍路～九州その2](#) 》

2012年11月23日（金）

お遍路～九州その1



大山寺

今月末締切の仕事も終わってないのに、またお遍路にきてしまった。

松山空港に始発便で着き、前回歩き残した大浦までの23キロを歩き出す。まもなく道は海岸線を離れて、52番の大山寺に着く。今回のお遍路での一番西のお寺である。次の53番の円明寺までは2キロ程度と近いのだが、54番までとなると30キロ以上もあって1日で歩き通すのも大変だ。今日は大浦までなので、夕方には着き、電車で今

治に向かう。今治では時間が十分あったので、ジムでクライミングを楽しむ。なかなかグレードの辛いジムであった。

2012年11月23日(金)

お遍路～九州その2

今朝は寝坊してしまい、出発が9時過ぎとなってしまう。今日も前回歩き残した所なので今治から南下するわけだが、同じく歩き残した57番から59番の札所をどう組み込むかが問題となる。58番の仙遊寺は標高300メートルの山の上であり、三つの札所を結ぶコースは優に一日がかりのハイキングにも匹敵するものである。最初はレンタサイクルを利用することも考えたが、雨模様であり、本降りにでもなったら、傘をさしながら漕ぐわけにもいかないだろうし、やはり歩いて参拝した方が御利益もあるような気がしたので歩いていくことにした。

57番の永福寺まではほぼ平坦な道だが、途中で食料を持ってきていないことに気付くが、まあ1食くらい抜いても、行動には支障はないだろうと、そのまま歩き続ける。

仙遊寺に向かう道はすぐに本格的な登りとなる。車が次々と通るので参拝者は多いようだが、歩いて登る人は皆無である。一人だけ自転車で来ている人がいたが、こちらが歩いて登っていると、優越感を感じてしまうのは妙なものである。

仙遊寺はちょうど紅葉シーズンで見ごたえがあった。



59番の国分寺へは自動車を離れて遍路道に行くので、しずかは下りが楽しめる。途中でコンビニがあったので、弁当を買って遅い昼食をとる。

59番の国分寺には3時過ぎに着き、これで松山—高松の札所25箇所は全部行ったことになるが、88全部に行くのはいつになることやら。

国分寺を出たのは3時過ぎだったが、まだ20キロ近く歩かなければならない。途中で宿に電話して宿の予約者をとったが、宿に着いたのは10時近くになってしまった。

2012年11月25日（日）

お遍路～九州その3

今日の行程は40キロ以上と長いが、途中には札所はなく、他にも特に見るべきものもないので、単調な一日となりそうである。

6時過ぎにどしゃ降りの中を宿を出て駅に向かう。実は前回来たときに小松、氷見間

は札所巡りをしながら歩いたので、たった1キロちょっとではあるが、今回はパスして電車に乗り、歩行時間を少しでも減らそうという魂胆である。

隣駅の氷見で下車すると雨は小降りになっていた。いよいよ長い一日の始まりである。40キロ以上も歩くことを考えると、それだけで嫌になってしまうので、身近な目標だけを目指して歩くことにする。

気分が乗らないせいか、半分も歩いてない段階で、荷物が軽いにもかかわらず背中が張ってくる。おまけに、足に豆はできるは、捻挫の後遺症は痛み出すはで、果たして丸一日歩き続けられるかどうか、危ぶまれてくる。ただ途中で旧街道に分岐するので多少気分が紛れてくる。そこはへんろ道の標識も出ていたが、今どき、札所間の距離が40キロ以上もある所を歩く人が果たしてどれほどいるであろうか。

今日は国道を行くので、登りはないと思っていたら、後半は緩やかながら登りが続くようになる。ただ、そのほうがかえって、気持ちに張りが出たのか元気になってくる。

大相撲をラジオでききながら、白鵬の優勝を確認してコンビニに立ち寄ったのが、ゴールの三島まで12キロの地点で、松山までの最終の一本前の電車に十分間に合う時間だ。途中、時間と距離を確認しながら歩くが、段々余裕がなくなってきたので、スピードを少しあげて、腹が減っていたが、コンビニも素通りする。

三島まで数百メートルの所まで来て、駅と反対方向にコンビニがあるのを発見して、車内用の飲食物を買って行こうかとも思ったが、気が急くので駅に直行する。駅には予定の電車の発車時間の10分以上前に着いたが、案の定、駅前には開いている店はない。コンビニまで戻っている時間はない。やむを得ず、自販機で腹の足しになるものを買って電車に乗り込む。

車内ではブログ書きで時間をまぎらわして空腹をしのごうとしたが、さすがに特急は早く書き終わらないうちに松山に着く。早速、駅前のラーメン屋でビールで乾杯して、最低目標であった高松、松山間の踏破を祝う。

食後にホテルを探そうと思ったが、もう日付も翌日となった時間でもあり、たまたま隣にネットカフェがあったので、今夜はそこで過ごすことにした。



ネットカフェ

2012年11月26日(月)

お遍路～九州その4

当初の予定では松山から伊予灘に沿って八幡浜まで歩き、そこから大分に出港するつもりだったが、そうなると60キロ近くの歩きとなって、1日では辿り着けそうもないし、三日間の疲れがたまって、歩くのが辛くなってきている。それよりも何よりも、今回九州から帰ることにしたのは、北九州にいる友人と10数年ぶりに会うのを楽しみにしていたからであるが、大分から北九州までとなると、移動時間だけでもかかってしまうのだ。ところが、ネットカフェで検索していると、松山から小倉までの夜行便があることを発見、これですべての問題が解決することとなった。後は、今日一日をどう過ごすか

であるが、松山市内に一日いてもしょうがないので、松山郊外を南に連なっている札所をレンタサイクルで巡ることにした。その中の一番南の札所までは片道40キロ以上あったが、高低差のことは頭になくて、たいしたことはあるまいとたかをくくってしまう。

レンタサイクルを借りてびっくりしたのは変速ギアもついていないママチャリであったからである。

まあなんとかなるだろうと出発する。ママチャリに乗るのはひさしぶりだが、すぐに慣れる。ところが、傾斜は次第にきつくなり、峠の標高720メートルの標識が現れて一瞬ひるんでしまう。気を取り直して立ち漕ぎで行けば、時間はかかるが、ママチャリでもなんとか峠までたどり着くことができた。



三坂峠
Misaka Pass
(標高720m)



ところが、そこでGPS地図で確認すると、45番の札所まではまだ20キロ以上もあってアップダウンも続くようなので、往復すると3時間以上はかかりそうだ。次回に予讃線の松山以南の最寄り駅から往復することとし、今回は46番以降に行くことにした。峠の下からは松山市街の眺めが一望でき、まあ展望台に上がったと思えば、ここまで上がってきた苦労も無駄にはなるまいと気持ちを切り替えて一気に下り始め、途中で46番の
の小道に入って行く。



さすがに自転車だと早く、最後は暗くなってしまったが、51番まで6つの札所を効率的に回ることができた。ただめったにいないことではあるが、歩き巡礼の人に逢うと後ろめたさを感じてしまう。やはり巡礼は歩いて行くからこそ価値があるとのだろう。51番の先に道後温泉があるので立ち寄り、道後温泉を代表する建造物の温泉に入

ってから市内に戻り、自転車を返した後、リムジンバスでフェリーの乗り場に向かった。



道後温泉

2012年11月27日(火)

お遍路～九州その5



フェリーは5時に小倉港に着き、周りの乗客は皆下船していくが、今日はゆっくりできるので、しばらく仮眠してから下船して駅に向かう。

午前中は小倉城やその周辺の観光地をめぐって過ごす。



松本清張記念館では「日本の黒い霧」のDVDまで見てしまう。今まで知らなかった事実まであって興味深かった。

午後は近くのジムでボルダリングを楽しむ。今治のジムと同様に辛いグレード設定であった。関東に比べてこちらのクライミングのレベルが高いのか？

夕方まで遊んでからホテルに向かい、荷物を置いて駅で友人と落ち合う。十数年ぶりの再会であった。その晩は昔話に花を咲かせながら小倉の夜を楽しんでホテルに戻る。明日からは、また東京でのいつもの生活が始まるのだ。

2012年12月21日(金)

日本縦断徒歩旅行(九州編) その1

師走もおしつまり、世間では猫の手も借りたいほどの忙しさだというのに、悠長にも九州に徒歩旅行にきてしまった。

前回は松山から小倉まで船で渡ったので、本来は小倉からスタートすべきであるが、それでは旅程が長くなりすぎるので、前回までに歩いた高松から松山までのラインの延長線上にある大分をスタート地点にすることにした。

大分駅からは海岸線から少し離れたところに行くので海は見えない。ようやく海が見えたかと思った時には、海岸線を離れて半島横断の道に向かう。このまま海岸線に沿っていくと関サバ、関アジで有名な佐賀関だが、そこまで行っていると、ホテルを予約してある臼杵までたどり着けなくなってしまうので、ショートカットすることにした。余談だが、同じ漁場でとれても、商売上手な佐賀関に水揚げされると高く売れ、これから向かう臼杵に水揚げされると、半値以下になってしまうそうだ。

峠を越え、今夜のねぐらである臼杵が間近になった頃にお客さんから携帯に連絡があり、私が手掛けている仕事に関してイチャモンがつき、そのお客さんに損害が発生しそうだということである。突然のことであたふたとしてしまい、後で調べてから連絡すると答える。

ホテルに着くや否や無線LANからインターネットに接続して情報を集めだす。ところが今回はノートPCを持ってこなかったのが、スマホやPDAでやってみたが、効率が著しく悪い。そこで近くにネットカフェでもないか聞きに行こうとフロントに行きかけると、そこにはPCが置いてあったので、これ幸いと使わせてもらい、問題点を整理して自分の処理にまちがないことを確認して、お客さんにメールを出す。ここまでの作業で2時間以上を要し、臼杵名物のフグ料理店に行く時間がなくなってしまった。やむをえず、ホテル内のレストランで注文したのが下の刺身定食である。



初日からバタバタとしてしまったが、やっぱりこんな時期に旅行にきたのがまずかったかな

2012年12月21日(金)

日本縦断徒歩旅行(九州編) その2

今日は佐伯までの予定だが、最短コースだと26キロ程度で1日のコースとしてはやや短すぎるように思えたので、遠回りではあるが、国宝の臼杵大仏や風連鍾乳洞を通る変化にとんだコースを通ることにした。ただ40キロ以上の長丁場となるので、1日で歩きとおせるか心配であるが、いざとなったら適当なところで野宿するだけである。その前に臼杵城址に立ち寄る。江戸時代の城主は歴史の表舞台には登場しない地味な大名であるが、臼杵城の前身の城は鎌倉時代から戦国末期まで北九州に君臨

した大友氏の居城である。

城見物の後、臼杵大仏に向かう。途中、昨日のイチャモン事件が一件落着とのメールが入る。人騒がせなことである。それにしても旅行中でも、仕事に支障なく対応できるとは、ネットの威力は凄いものである。

臼杵大仏は中国から僧侶を招いて作ったそうである。本番の石仏とは比べるべくもないが、それなりに見ごたえのあるものであった。



そこから風連鍾乳洞までの道程は遠く、鍾乳洞の手前で暗くなってしまふ。夜に鍾乳洞に行ってもしょうがないので、近くの小学校の建物の裏で一夜を明かすことにする。校舎は真っ暗で宿直はいないようだし、校門も開けっぱなしである。今回はテントや寝袋は持参してこなかったが、野宿するための最低限の装備はあるので、屋根があつて雨に当たらず、建物の南側で北風から守られている今夜のねぐらは星三つという

ころである。惜しむらくは、学校前にある雑貨屋には酒を売ってなかったことである。

やむをえず、今日は休肝日となってしまった。

2012年12月22日(土)

日本縦断徒歩旅行(九州編) その3



前夜はかなり雨が降ったが、庇のお蔭で濡れずに済んだし、いっばい着こんだので寒

くもなかったが、枕が変わると寝られない質なので(ウソウソ)、なかなか寝付かれず、ラジオを聞きながら寝ていたら、いつの間にか寝入ってしまい、目が覚めたらあたりはすっかり明るくなっていた。

朝食もとらずに(というよりもとれずに)歩き出す。1時間ほどで鍾乳洞に着く。食堂があるが、まだ営業をしていないので、先に鍾乳洞見物を済ませる。日本一美しい鍾乳洞という触れ込みだが、今年見た岩手の龍泉洞とはどっこいどっこいか。

見物を終えて外に出ても、まだ食堂はしまったままである。いつまでも待っているわけには行かないので先を急ぐ。その先にもいくつかのレストランがあったが、みな廃業している店ばかりである。ようやく食事にありつけたのはお昼を大きく回ってコンビニにたどり着いた時である。前日の夕方に山のなかでたまたま営業していたお店でチャンポンを食べられたから良かったものの、そうでなかったら24時間絶食する羽目になるところであった。

午後は当初の予定では海岸沿いに行くつもりであったが、それだと時間がかかりすぎるようなので、日豊本線に沿って走る10号線の最短コースに行くことにする。この辺りでは比較的大きな町である直川を今日の目的地と決めて歩き出す。直川には6時前には着いたので、駅前のレストランに入って、久しぶりにまともな食事をしながら、付近のホテルをグーグルで検索すると、なんと歩いて1時間も離れたキャンプ場近くに旅館があるだけである。そんなところまで歩いて行くわけにはいかないので、今夜も野宿をすることになってしまった。ただ今夜は駅の待合室なので、昨日よりはだいぶ快適な一夜をすごせそうだ。さらに近くのスーパーで酒とつまみをしこたま買い込んだので、夜も退屈せずにすみそうだ

2012年12月23日(日)

日本縦断徒歩旅行(九州編) その4

前夜のねぐらはホームの待合室で一応入口以外は壁に覆われていたので、一昨晚の校舎裏の吹きさらしよりも段違いに上等である。無人駅だから、最終が出てしまえば、静かな夜が約束されていると思ったら、どうも外が騒がしい。たくさんの保線作業の人が作業を始めている。彼らも私の存在に気付いたようだ。追い出されるかなと思ったが、ホーム上のことは彼らの管轄外のように、私には無関心だったので、私も無関心を装って寝入ってしまう。早朝目覚めた時には彼らの姿はなかった。彼らのお蔭で安心して鉄道に乗れるのだから感謝しなくては。今日の行程はとりたてて見所のない退屈なコースである。強いて言えば、県境を越えて宮崎県に入れる(多分)くらいか出発の時に駅前のスーパーがまだ開店していないのを知って焦る。コンビニじゃないのだから当たり前なのだがうっかりしていた。昨夜のうちにパンでも買っておけばよかった。隣の駅まで多分お店はないだろうから、しばらくの辛抱だ。でも10キロも離れているんだよな。

今日は午前中には隣駅近くの食堂にたどり着き食事にありつける。当地名物の団子汁を注文する。うどん状にした団子を油揚げと野菜と一緒に味噌で煮込んだものだが、素朴な味で美味かった。



お店の人がご飯のお代わりはただだからお代わりしていけと何度も勧めるし、朝昼兼用だからとお代わりしてもらったのだが、さすがに満腹となってしまう、しばらくは歩くのがいやになってしまった。

ちんたらちんたら歩き出すと思ったよりも早く宮崎県に入ることができた。



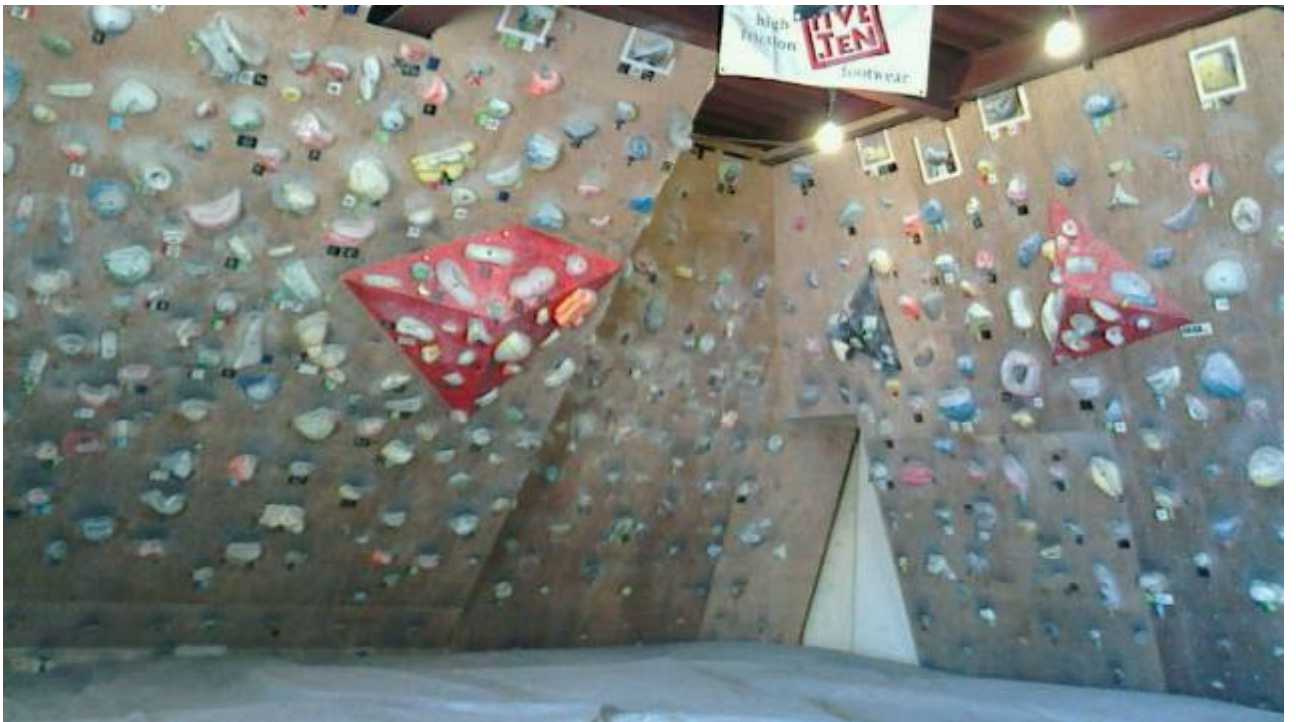
ここまで来れば目的の半分以上は果たしたようなもので、あとは時間の許す限り先に進むだけだ。

夕方に延岡北方の北川に着くが、駅近くにあった旅館は真っ暗で営業していないようで、他にはホテル等はないようなので、三つ先の延岡のホテルに泊まって、翌朝に北川に戻って続きを歩くことにした。

野宿が続いて体が冷えきってしまったので、ホテルは大浴場付きの所を選び、じっくりと体を暖めて鋭気を養い、明日の最後の行程に臨みたい。

2012年12月24日(月)

日本縦断徒歩旅行(九州編) 最終日



久しぶり？にベッドに寝たが、体が野宿に慣れてしまったのか、3時過ぎに目が覚めたら、それからは目が冴えて眠れなくなってしまった。それでテレビをつけて見ていたが、気付かないうちに二度寝をしてしまい、朝食時間の時に目覚ましもかけてないのに目が覚めてレストランに直行する。バイキング形式だが、なかなか豪華な内容でしっかりと食べる。朝食をまともに食べるのも何日ぶりかの気がする。

食後は大急ぎで支度して、昨日の最終到達点である北川に戻るために駅に向かう。

というのは、その列車を逃すと夕方までないのだ。

北川に戻ると、駅前に昨日置いておいた棒きれを拾い上げる。大分の山間部で杖代わりに拾い上げたものだが、長く使っていると愛着がわいて捨てられなくなってしまったのだ。

毎度のことであるが、歩き始めは捻挫の痕が痛み、引きずるような歩き方になるため、ペースがあがらないが、痛む部分の関節をある程度使っていると、痛みも軽くなり歩くスピードも上がってくる。

1時頃には延岡に戻り昼食に豚骨ラーメンを食べる。食後はすぐに歩き出したいところだが、実はひとつ予定があるのだ。それはお米屋さんが趣味で作ったクライミングジムを一般にも解放しているということをネットで読んだので、ぜひ寄らずにはなるまいと思ったのである。

場所はすぐにわかったが、休日の午後だというのに客は誰もいない。東京では考えられないことなので、最初は休みかと思ったが、扉を開けて声をかけると、奥からオーナーが顔を出して営業しているとのこと。他人に煩わされずに登れるのは良いことだと登っていると、オーナーは米の配達に行くということで留守番を頼まれてしまう。後の予定もあり、長居するつもりもなかったが、オーナーはなかなか帰ってこない。すると都合のよいことに子連れの客がやってくる。子供は登っている下を走り回っていて危ないし、すぐに退散するつもりだったが、そういえばまだ料金を払ってなかった。後から来たお客さんに聞いてみると、料金は500円で箱の中に入れておくそうだ。東京の相場の半値以下だが、生憎細かいお金がなかったので、千円札を入れて、半分は寄付ということにしてジムを出た。

明日は宮崎空港から帰京するのだが、その前に宮崎に嫁いでいて、ここ10年ほど会っていない姉を訪ねることになっている。ここから宮崎までは80キロ以上あり、次回

以降のアルバイトになるので、今日多少頑張ってみたところでしかたがないと思いつつも、つい急ぎ足となってしまふ。その時、今日はクリスマスイブであることを思い出す。家族で祝うことがなくなってから久しいが、今回の旅行がほぼ予定どおり終わられそうなことを祝って一人クリスマスとして、七面鳥の代わりにチキンのフライ、ケーキの代わりにスイーツをコンビニで買って食べる。そうこうするうちに門川という駅に着き、ここを今回のゴールとして長旅を終えることにした。

2014年3月27日(木)

比叡山ニードル左岩稜



国際線ロビーでの一夜が明け、国内線への連絡バスで移動して宮崎に向かう。空港でJRに乗り換えて延岡に向かい、更にバスに乗り換えて比叡山の麓まで行き、そこで待ち合わせたガイドの車に登山口まで乗せてもらう。

1時少し前にクライミングを開始する。ニードル左岩稜のルートはノーマルとスーパーがあるが、今日はノーマルに行く。ノーマルルートも1ピッチ目は初登時にとられた簡単な階段状のルートとその左のダブルフレークと呼ばれるやや難しいルートがあるが、

後者を登る。とっかかりのフレークがレイバックもジャミングも決めにくくて少々難しく、ヌンチャクを掴んでしまう。2番目のフレークはさほど難しくなく快適に登る。2ピッチ目からは5.9を超えるところはなく、ぐいぐい登って行ける。短くピッチを切っていたので全部で10ピッチ近くあったが(トポでは6ピッチ)、終了が4時前だから3時間程度といいペースで登ることができた。お陰で予定していたのよりも1本早い延岡行きにほとんど待たずに乗れるというラッキーにめぐまれ18時丁度に延岡に戻ってくることができた。このまま駅前のホテルに泊まってしまってもよかったのだが、あまり早くホテルに入ってもやることはないし、宮崎交通の1日共通切符を買ってしまったこともあるので、前回到達し

た門川駅近くまでバスで行き、そこから6キロほど先の日向まで歩いたところ、たまたま通りかかったところにネットカフェがあったので、そこで旅の第一夜を過ごすこととなってしまう。

2014年3月28日(金)

日向灘を歩く

二晩連続で熟睡できなかったのも、今朝ネットカフェで高鍋の宿を予約する。ここから40キロ先にあり、午後8時到着予定と入力したが、果たしてそれまでに辿り着けるか？

日向駅の近くまで行けば飲食店くらいあるだろうと思っていたのだが、あてが外れて全くない。やむを得ずコンビニ弁当を買う。コンビニ弁当も結構うまいけど。

昨日のガイドに装備の一部を返し忘れていたので予め調べておいた南日向駅近くの郵便局から送る。自分の装備も昨日コンビニから送ってあるので荷物は軽くなってい

るはずなのに荷物の重みで背中が張ってくる。先週末の鹿島槍の時の重荷の後遺症の影響なのだろうか。

背中中の張りや眠気で歩くのが辛くなってきたので、まだ昼前だが、道の駅に入って休憩する。食堂あったがろくなメニューがなかったので、外に出て歩きを続ける。

しばらく歩いていると空腹を感じてきたが、レストランはおろかコンビニも現れない。国道をあるいているんだからコンビニはそのうちに現れるだろう。2回連続のコンビニ弁当もやむを得ないかと諦めかけた時に海鮮レストランが現れたので迷わず入店する。なんでもこのあたりから神武天皇が船出したという言い伝えがあるそうで、それに因んでなづけたいらしい船出定食というのを注文する。海の幸が満載で、日向灘を眺めながらの食事は格別である。



船出定食

満腹となってしまう暫くは歩くのが億劫なので午前中の出来事をブログにまとめていたら時間がかかってしまい、レストランに思いかけない長居をしてしまった。

午前中から足に豆ができていたが、だんだん我慢できないほど痛くなってきたので、コンビニで針とマッチを買って豆をつぶして多少は歩きやすくなった。だいぶペースが遅くなってきたので、このままでは20時にはホテルには着きそうもないとペースを上げて20分遅れでホテルに到着、なんとか40キロを歩けたが疲れた！

そのホテルは60歳以上は証明書を見せれば1割引きとのことでラッキーだった。60歳以上となって久しいが、こんな御利益？に浴したのは初めてかもしれない。少し気恥ずかしい気もしたが、孫ができておじいちゃんにもなることだし、まあいいか！？

2014年3月29日(土)

降雨の前進

朝から強い雨が続く中を宮崎目指して南下する。足下がびしょ濡れとなり、昨日足にできた豆は更に悪化してきている。

朝は昨日と同じく40キロ近く歩くつもりであったが、宮崎駅までの30キロが限界であった。当初は翌日は霧島を登るつもりであったが、午前中は大荒れ予報のため、翌々日に変更するつもりであるが、ひょっとして天候が急速に好転する可能性が0ではないとかんがえ、早朝出発となった場合でも対応できるよう準備万端を整えた。

2014年3月30日(日)

宮崎の休日

今朝は天気が回復しているようなら霧島山に行くつもりであったが、朝のうちはまだ雨が残っているようだし、天気が確実に回復するのは午後からで、自分の登山時間とな

る午前中の山の天気を読めなかったので、確実に好天が見込める明日に登山は延期して、今日は休養を兼ねて今回歩きでは立ち寄れない城下町の飫肥と野生の馬の生育で有名な都井岬を巡ってくることにした。

飫肥は1時間しか滞在時間がとれないので、下車してすぐに町に向かう。朝早いため、店はまだ開いておらず、名物の飫肥天は食べ損なってしまった。それでも大手門まで

は行き、そこからは武家屋敷通りを通過して駅に戻った。



油津でかなりの待ち時間の後、志布志行きに乗って串間で下車。さほどの待ち時間もなく都井岬行きのコミュニティバスに乗り込む。乗ってきたバスは15分で串間駅に戻って行くが、それではあまりに滞在時間が短くなってしまふので、次のバスにすると、今度は3時間以上後になってしまふので、どうも融通の利かないダイヤである。

都井岬に近づくとあちこちに野生の馬が見られて旅情を誘われる。バスを下車してまずはビジターセンターに向かう。要するに馬の生態についての解説がメインで入場料300円の値打ちは感じられなかった。そうそうに退出して、早めの昼食をとる。ゆっくり食事をして、展望台で景色を眺めてもまだたっぷり時間は余っていたので灯台まで往復してくる。けっこうな登りで、今日は休養日なのにと考えたが仕方ない。



帰りのバスでは寝過ごしてしまい、もう少しで串間駅に降り損なうところであった。列車の待ち時間がずいぶんあり、土産物屋を覗いたりビールを飲んだりして時間を潰す。

ここから宮崎までは83キロとの表示があり、明後日から3日間にわたって逆方向からほぼ鉄道に沿って歩くことになるわけだ。どうか元気に歩けますように

宮崎に着いてから、こちらに住んでいる姉夫婦と食事を共にして、宮崎の休日を終えた。

2014年3月31日(月)

霧島登頂

始発の電車に乗って霧島登頂を目指す。ところが霧島神宮で下車して駅前のバス停でえびの高原行きを探すが、それらしきものが見当たらない。近くにいたタクシーの運転手に聞くと、バスは廃止されて走っていないという。そんな馬鹿な！ちゃんとネットで調べて来たのに。運転手の話ではネットを信じて間違っただけの人がたくさんいるそうだ。ネットの情報を訂正しないバス会社もひどいものだ。丸尾という所からはえびの高原行きのバスが出ているらしいが、本数が少ないだろうから果たしてうまく接続しているかどうかもわからない。タクシーを利用するしかあるまい。

えびの高原に着くとタクシー代金は5550円だった。予定外の出費となってしまった。運転手がバスの時刻を見てくれて、13時の丸尾行きのバスに乗れば丸尾で霧島神宮行きのバスに乗り継げると教えてくれる。行き先の違う11時発のバスもあったが、どうせその時間には降りては来られないだろうとさして気にもしなかった。

霧島の最高峰である韓国岳への登山道は登りやすい道だった。荷物が軽いこともあ

り、ぐんぐん飛ばして行き、先行の登山者を次々と追い抜いていく。こんなことは久しぶりである。コースタイム1時間半の所を1時間かからずに登りきる。

期待していたほどの好天ではなかったが、360度の眺望は得られたので、登った甲斐はあった。86座目の百名山登頂である。



時間的には11時のバスにも間に合いそうに思えたので早々に下山を開始する。降り始めて間もなくして大浪池のコースを降りていることに気付いたが、多少遠回りになっても違うコースを歩いた方が面白いだろうと、そのまま降りていく。急な木の階段をどんどん降りていくと大浪池が次第に近づいてくる。大浪池を囲む外輪山の一角に辿り着くと、そこからはえびの高原に向かって小刻みなアップダウンが繰り返されるようになり行程が捗らなくなる。このままでは11時に下山するのは難しくなるかもしれないとペースを上げたため、なんとか間に合ったが大汗をかいてしまった。

11時を少し過ぎてバスはやってきたが、運転手に聞くと、このバスはJR駅行きのバスには接続していないので、次の13時のバスに乗るように言われる。なあんだ、急いだ分だけ損したわけか。しかたないので2時間の待ち時間の潰し方を考える。

まずはレストランに入る。宮崎県に入って何日も経っているのにまだ宮崎牛を食べてなかったので、焼肉を注文する。



食後に外に出てみると近くの国民宿舎で日帰り温泉に入れることがわかったので、有名な霧島温泉にはいってみようかとも思ったが、着替えを宮崎駅のコインロッカーに他の荷物とともに置いてきてしまっており、入浴後にまた濡れた服を着るのも嫌だったので足湯だけで我慢する。それでも霧島温泉に入ったことになるかな。

バスの発車時間までにはまだ時間があったのでどうしたものかと思っていたところ、近くにコミュニティセンターがあったので暇潰しに寄ってみる。こちらは火山に関する

展示がメインであるが、昨日の都井岬のそれよりも内容が充実している上に無料であった。

ようやく待ち時間を消化して丸尾行きのバスに乗り込む。思っていたよりも時間がかかって丸尾に到着する。乗り継ぎがスムーズにできるかどうか気がかりだったが、さほど待つこともなく乗り継ぎができてホッとする。乗り込んでしばらくすると次の停留所は霧島神宮とのアナウンスがある。大勢の乗客が降り始めたので、自分もつられて降りかけたが、運転手にJRの駅は近いか聞いてみる。すると歩くと30分以上はかかるとのことである。振り返ると長い石段の先に鳥居が見えている。ここで降りて参拝して次のバスで駅に向かうことも考えられたが、その場合は予定している電車に遅れるリスクもある。それに自分はお遍路を行っているように仏教には共感を持っているが、神道は好きでないのだ。神社でも自然崇拝から発生した原始信仰の側面が強いものは許せるが、天皇制国家の精神的支柱をなすようなもの(靖国神社、伊勢神宮等)は常々忌み嫌う存在だと思っている。この霧島神宮は天孫降臨伝説に象徴されるようにまさに後者の性格が強い神社と思われるので無視することとした。

霧島神宮駅に着いてからは、このまま宮崎駅に直行してしまえば楽なのだが、JR全線乗車を目指している自分は、あえて薩肥線・吉都線経由の遠回りで帰ることにしたために霧島神宮駅でも2時間近い電車待ちを余儀なくされることになってしまった。だが、このために東京の金券ショップで本来なら1枚2300円のはずの青春18切符のバラ売り券を3500円も出して買って来たのだから仕方ないのだ。それにこのコースをとることにより、今日は西面南面を通ってきた韓国岳を北面、東面からも眺められるという楽しみも生まれるのだ。

吉松駅で14分停車して列車は薩肥線から吉都線に移る。薩肥線自体は吉松から人吉まで続いているのだが、なにしろ上下線とも1日5本しか運行しない超ローカル線なので、これを踏破するのは至難の業である。

吉松駅を過ぎると霧島の山々が近づいてくる。行きに通ってきた日豊線からは数10キロも離れていた山並みが今では10数キロしか離れていないのだ。ただあいにく時間が遅くなってきたためにシルエット的にしか見えないのが残念だ。明るい時であれば、さぞかし雄大な眺めだろう。

やがてシルエットも暗闇の中に吸収されてくると日豊本線との乗換駅である都城駅は近い。都城駅では乗換時間が30分ほどあったので、駅前のコンビニで弁当などを買って8時過ぎになってようやく食事にありつける。さらに1時間ほど電車に乗って宮崎駅に着き、予約してあった駅前のホテルで旅装を解いて長い1日が終わった。

2014年4月1日(火)

日南海岸第1日

ホテルから日南海岸までの最短路をとろうとGPSにルート設定して、それに従って歩いていると渡ろうとしている橋は通行止めとの表示が出ている。最初は車はだめでも歩きならOKかもしれないと思って進みかけたが、やはり思い直して少し遠回りにはなるが、別の橋を渡っていくことにした。そちらの橋から見ると、通行止の橋は半分くらいが橋脚だけとなっており、思い直してよかったと思った。多分懸けかえでしょうが、完成は平成33年という気の長い話である。予算の関係からかしら？

宮崎に着いた日に雨で靴がずぶ濡れになりながら歩いたためにできた豆の痕が、水泡を潰して水は全部だしているにもかかわらず、水泡の下の皮膚がまだ固くなってないために歩くとかなり痛む。バンドエイドや靴下を替えてみても効果がなかったので、明日も痛むようならば、包帯でぐるぐる巻きにして、患部のショックをやわらげるようにしてみよう。

空港と運動公園の横を通っていく道は単調だったが、やがて日南海岸が見渡せるようになると多少は気が紛れてくる。今回は時間短縮のために国道を歩いたので小高い所から海岸線を眺める形となった。



青島あたりは半世紀前まではハワイなぞは高根の花であったので、新婚旅行のメッカだったようだが、今はさびれてしまったと聞いている。それでも遠くからみる限りは建物がたくさん建ち並んでいるそこそこの町に見えるが、青島から南になると人家もほとんどなくなり、静かな海岸線だけが続くようになる。



コンビニも夕方に飲み物を買って求めた店が最後でこの後は油津までは20キロ以上コンビニがなくなってしまうのだ。この事は事前に調べてあったのだが、うっかり忘れてしまって買い出しもせずに、6時頃に伊比井駅に着いて初めて思い出した。今晚はこの駅で仮眠するか、もう少し歩いてホテルに泊まるかのいずれかとしていたが、食料がなくては駅に泊まることもできないので、数件あるホテルに電話してみると、いずれも定休日だという。ウソーといいたくなかったが、やむを得ず電車で二駅戻って、先ほどのコンビニで食料等を買って込んで、駅での長い夜を過ごすことになった。

2014年4月2日(水)

日南海岸第2日



足の豆を潰した痕が痛むので、そろりそろりと歩いていく。さらには風邪が悪化して体の節々が痛み、最悪のコンディションである。体調が良ければ素晴らしい景色を楽しみながら歩けるのに難行苦行の1日であった。ただ行程的には大きく遅れることなく30キロ近くは歩けたのでまずまずであった。予定では海岸線から離れた山間部にある駅で仮眠するつもりであったが(近くにホテル等がないため)、2日連続の仮眠は辛いため、少し手前の日南海岸の民宿に泊まることにしたのだが、チリ地震による津波の危険に直面することになってしまった。明日は早朝に起床して津波情報を確認しておこう。

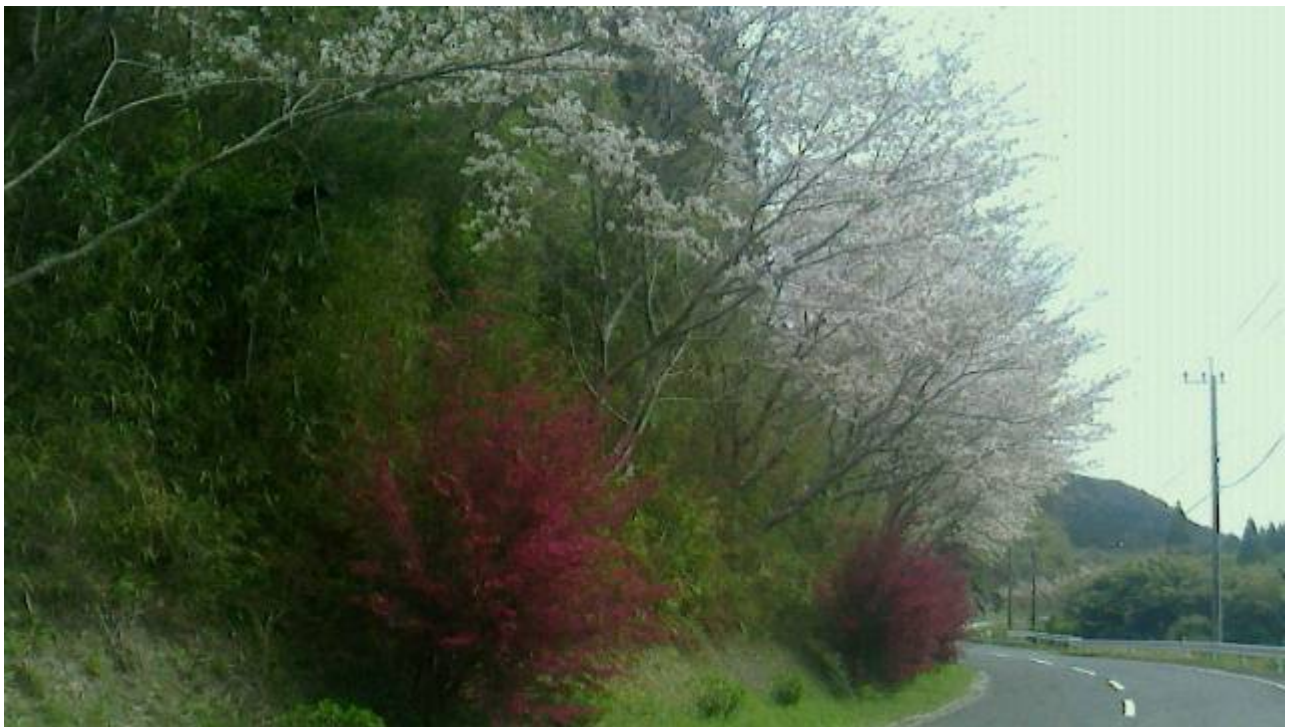
2014年4月3日(木)

いよいよ鹿児島へ

早朝にテレビで確認すると九州は津波の危険がないということで安心したが、そのまま朝まで眠れなかった。

今日は昨日までの海岸線とうって変わって山間部をいくことになる。海岸線の眺めも飽きてきた頃なのでちょうどいい気分転換である。

国道の表示の串間までの距離がGPSのそれよりも一キロ長いなと思ってたら、GPSのコースは国道から別れて農免農道に行くようになっていたのだ。国道は鉄道に沿っているのですが、それほどアップダウンはないだろうが、GPSのコースは峠をいくつか越えるようなので距離は少し短くても、楽かどうかはわからない。ただ車の往来の激しい道をチンタラ行くよりも山道を行った方が気持ちいいであろうと、農道に行くことにした。結果的にはこちらを選択して正解だった。桜や名前はわからない花が咲き乱れ季節のうつろいを感じさせる旅をすることができた。



日南市と串間市の境が峠になっており、そこで昼食をとってから串間側へ降りる。国道と合流すると、串間駅も間近い。その時、後ろから声をかけられて振り向くと、昨日、南郷の手前で追い抜かれた人だ。その時はあっという間に先に行ってしまったので、今日はずっと先を歩いているのかと思ってたら、人の1日に歩く距離にはさほど差はないのかもしれない。

私と同様に佐多岬を目指しているとのことだが、なんでも毎日神社にテントを張っているそうだ。

串間の駅で彼と別れて、ホテルに荷物を置いてから、志布志に向かって空身で歩き出す。前にも書いたことだが、JR全線乗車を兼ねている関係で、串間と志布志間は往復しなければならないのだが、片道は空身で歩いてから列車で戻れば体力の温存もできて一石二鳥である。

志布志駅のひとつ手前の駅までしか行けなかったが、ここまで行ければ十分である。それに志布志市には入れたので日本列島徒歩縦断の最後の県に足を踏み入れたことになるのだ。志布志駅までは電車で行き、駅前の居酒屋で鹿児島県到着を祝って地元の食材を肴に焼酎を楽しんだ。

2014年4月4日(金)

大隅半島横断中

昨日空身で歩いた大隅夏井まで電車に乗り、そこから歩き始める。1時間ほど歩いて志布志駅に着き、行程の遅れを取り戻す。後は今日中にあいらの健康ランドまで行くだけだ。

国道は志布志からしばらくは海岸と平行して進むので、ところどころから志布志湾の青い海が眺められる。



やがて国道は海岸線を離れて山間部に入っていく。といっても標高は高い所でも数10メートルあるに過ぎない。

今晚泊まる健康ランドまではしばらくは国道を行くのでGPSでコースを確認することもなかった。鹿屋市に入るとすぐに長い登りが待っていた。闘争心を掻き立てられて長い坂を登りきってGPSを見たところ、「アッチャー」、坂の手前で健康ランドへの道は国道と分かれていたのだ。一キロばかり無駄に歩いてしまった。それから先は道が複雑に折れ曲がっているので、GPSとにらめっこしながらの歩きとなる。GPSがなければ多分道を踏み外したに違いな。もっとも健康ランドの近くまで来ると、GPSは健康ランドの裏口の方を誘導するものだから、建物に入ることができない。そこでGPSを無視して表口から入ったが、間抜けなところもあるGPSだ。

ホテルではシャワーを浴びていただけだったので、久しぶりに入る大浴場でリフレッシュすることができた。今日頑張ったお陰でようやくゴールが見えてきたようだ。

2014年4月5日(土)

鹿児島湾に到達

昨晚宿泊した健康ランドは大隅半島のほぼ真ん中にあるが、今晚の宿泊地である鹿児島湾に面している根占までのコースは、ほぼ真西に鹿児島湾まで行き、そこから海岸線を南下するものと、根占までずっと山間部を行くものがある。後者の方が1キロ以上短いので、こちらを選択したが、アップダウンがきつい上、途中にお店がないので、食料を持参していかなければならない。

今日は特にトラブルもなく、予定していた5時ちょっと過ぎに根占のホテルに着く。大隅半島をほぼ2日かけて横断し、ようやく鹿児島湾に到達したのだ。



後は佐多岬に向かって海岸線を南下していただけた。

明日1日で佐多岬に行ってくるのは40キロ以上歩かなければならないのでなかなかたいへんだ。このプロジェクトの最後の仕上げになるわけだからアドレナリンを出しまくってがんばってみよう。

2014年4月6日(日)

日本列島徒歩縦断完結！

根占のホテルを暗いうちに出発する。外は結構強い風が吹いていて今一つ息が上がらない。明るくなってくると風も止んで、体の方も次第に調子が出てくる。この分なら昼前には岬手前のホテルまで行けるかなと思ったのが甘かった。伊座敷までは海岸線沿いの平坦な道であったが、そこから先は急な坂のアップダウンが続いてガクンとペースが落ちてしまった。それでも1時過ぎにはホテルに着いたので上々のペースである。丸1日ろくなものを食べてないので、レストランで「ご馳走」を食べる。食後にフロントで確認すると、岬までは送迎サービスがあるとのこと。助かった！これで帰りは歩かなくて済む。距離的には6キロ程度なのだが、アップダウンが激しい上、部分的に強い風の通り道もあってなかなかたいへんなので、帰りを歩かなくて済むというのは実にありがたいことなのだ。

佐多岬の最後の800メートルは遊歩道となっている。坂道を一步一步踏みしめて登っていくと展望台に着くが、これより南にはもう陸地のない本土最南端の地だ。



5年の歳月を要して日本列島徒歩縦断完結である。達成してみると、思ったほどの感激はなかったが、宿題をやり遂げたという充実感があった。

佐多岬は夕方だというのに結構観光客で賑わっていたが、わたしのような徒歩縦断をしているものはいないと思ったところ、串間では出会った同好の士とバツリ再会する。しばらく話をしてから別れるが、今日は岬の一角の風の弱い所でテントを張るとか。送迎の車でホテルに戻り、快適な夜を送る自分が少しいろめたかった。

今日泊まるホテルはいままでのような寝るためだけのホテルと違い観光客用であるが、日曜のためかがら空きである。目標を達成した晩だから、このくらいの贅沢はあってもいいだろう。

目標をやり遂げたのだから明日帰京してもよいのだが、予備日がまだ余っているので、明日体調が良ければ、100名山の開聞岳を登ってから帰るつもりだ。